昭和大学病院

クオリティインディケーター（QI）成果報告
〔精神神経科〕

指標名

リエゾンコンサルテーション・往診活動件数の充実

目標・ゴール

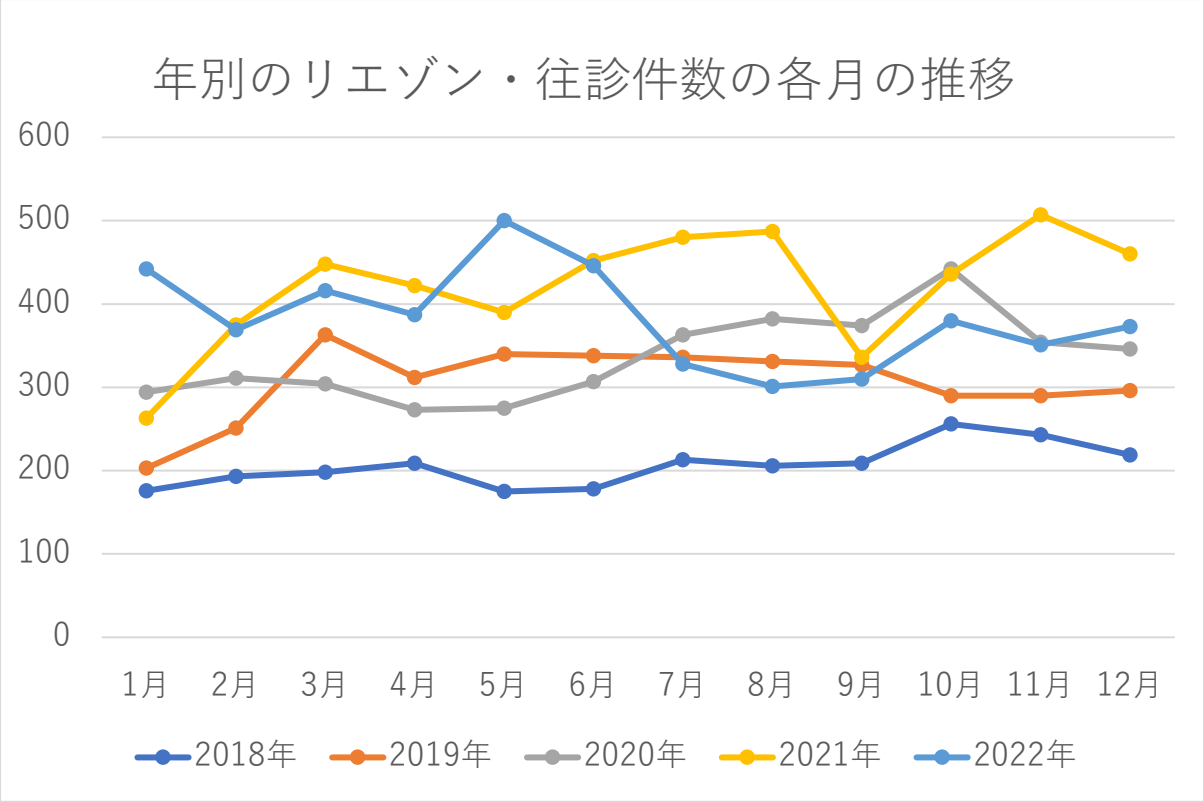
リエゾンコンサルテーション・往診活動件数の増加

目標・ゴール達成による効果

精神科専門アプローチによる身体科・精神科を含めた診療の質の向上

目標・ゴールに対する成果の状況

目標としたリエゾン･往診件数は、2018 年は総件数 2475 件、2019 年は 3677 件、2020 年は 4025 件、と 2021 年は 5056 件と増加傾向であったが、2022 年は 4063 件と前年より減少した。平均月別件数は、2018 年は 206.3 件、2019 年は 306.4 件、2020 年は 335.4 件、2021 年は 421.3 件、2022 年は 338.5 件であった。前年より減少したものの新型コロナ感染流行中の 2 年前よりやや上回る程度であったことから、積極的に新型コロナ感染症入院診療を行なった当大学病院における精神科専門アプローチの需要の高さが示された結果であった。



目標・ゴール達成度

※該当項目に☑をつけてください

☐S　:大幅に目標を上回った
☐A⁺:目標を多少上回って達成
☐A　:目標を達成
☑☐B⁺:目標を少し下回った
☐B　:目標を下回った
☐C　:目標を大幅に下回った
☐ー　:外的要因により継続困難となった。

目標・ゴールの課題・改善策

身体科入院患者に併存する精神症状や精神疾患に対する治療、また身体科の診療の支援は、総合病院精神神経科において極めて重要な診療活動の一つである。多職種と連携しているリエゾンチーム活動と連携しながら積極的に広報活動を行い、診療の質の向上に貢献していきたい。活動内容としては、新型コロナウイルス感染症と合わせてインフルエンザ感染症や別の感染症が流行する可能性は高いことから、感染症にまつわる特有の精神症状・精神疾患への対

応を継続していきたい。またここ最近の依頼件数の増加の影響として、リエゾン・往診の敷居が下がったことや啓発が進んだことが考えられる。よって、他の身体疾患にまつわる精神科専門的アプローチを要するケースにも幅広く対応をしていきたい。